

# 2020年活動報告

## コロナ禍においても充実した交通安全教育の継続をめざす

2030年ビジョンに掲げた“交通事故ゼロ社会の実現をリード”するために、Honda 安全運転普及本部は2020年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を展開した。

### 幼児が駐車場で事故に遭わないための安全行動を理解してもらおうプログラムを開発

商業施設の駐車場で歩いている子どもがクルマと接触したり、自宅の駐車場で子どもが親や家族の運転するクルマによって被害に遭う事故は後を絶たない。こうした事故を防ぐため、駐車場で事故に遭わないための安全行動を幼児に理解してもらえよう「できるニャンと交通安全を学ぶ」に「ちゅうしゃじょうのおやくそく」を追加した。

このプログラムは女の子がお母さんと一緒にクルマでショッピングモールに買い物に出かけるといったアニメーション映像を見せながら、指導者の問いかけによって「どうして一人でクルマから出たら危ないか」「クルマから降りる時、どうすれば安全か」考えてもらう内容。「一人で降りない」「(保護者と)手をつなぐ」「(クルマに)近づかない」という3つの約束を幼児に確認してもらえるようになっている。

さらに、駐車場で安全な乗降車だけでなく、シートベルト(チャイルドシート使用)の重要性や、ウィンカーや後退灯といったクルマのランプの意味についても言及している。



交通安全指導者が幼児に問いかけながら、駐車場でクルマから降りたら、すぐに保護者と手をつなぐことなどを伝えられるようなプログラム構成

### 高齢者の道路横断中事故を防ぐためのプログラムをリニューアル

高齢歩行者の死亡事故の代表的な形態は横断歩道以外の道路横断中に発生している。どのような行動をすれば道路横断中の事故が防げるか高齢者自身に考えてもらうことを目的に、2015年に開発された交通安全教育プログラムが「安全な道路の渡り方」である。歩行者が道路横断中、事故に遭う過程を再現した映像(アニメーション)や、道路横断を疑似体験できる内容(横断体験)が地域の交通安全指導者に評価され、全国各地の高齢者向け交通安全教室で活用されている。そして2020年、このプログラムをリニューアル。これまでは、パソコン用のプレゼンテーションソフトによって作成されていたため、交通安全教室でパソコンを使用できない場合は活用できなかった。そこで、プログラム全体を映像化し、DVDに収録。また、導入部分の内容も見直し、「頭と体の準備体操」「アハ体験※」「間違い探し」といった高齢者が興味を引く3つの課題から選択できるようにした。

※ある画像を一定時間提示し、その間に画像の一部を消すなどして変化点を見つけてもらうというもの。



横断歩道に左側から来るクルマとぶつかる事故の原因をドライバーと歩行者それぞれの視点から高齢者に考えてもらう

### 「新しい生活様式」に対応した普及活動への移行

2020年の春は新型コロナウイルスの影響による学校の休校で、子どもたちが交通安全教育を受ける機会が例年に比べ減少した。こうした状況を改善するため、各地域では外出できない子どもたちに交通安全教育を届けるため様々な取り組みを始めたのである。

その一つが動画投稿サイトなどを通じた情報発信である。このようなオンラインでの交通安全教育においても、Hondaのプログラムが活用された。例えば、横浜市では幼児交通安全指導員が「あやとりいひよこ(以下、あやとりい)」を使った指導を撮影し、同市のYouTubeチャンネルで公開。幼稚園・保育園などに活用をPRしている。また、自動車安全運転教育推進協会(愛知県)は幼児と保護者を対象にWeb会議アプリを活用したオンライン交通安全教室で「あやとりい」や「できるニャンと交通安全を学ぶ」を取り入れた。

「あやとりい」などのプログラムは、Hondaの四輪販売会社においても各拠点のショールームや近隣にある幼稚園・保育園で子どもへの交通安全教育を実施する際に活用されている。コロナ禍により自粛を余儀なくされたが、教室の再開に備え、来店した子どもたちに手軽に交通安全指導ができるよう「あやとりい」の映像版を完成させた。ポイントとなる箇所映像が停止して、子どもに問いかけ、意見を引き出せるようになっている。四輪販売会社のスタッフの利用を前提に開発されているが、希望する地域の交通安全指導者も活用できるようにした。

これまでHondaは開発したプログラムをより効果的に活用していただくため、その使い方などを地域の交通安全指導者に対面で伝えていた。これを見直し、プログラムを実演する様子を撮影した映像などを作成。プログラムとともに、その映像を提供することで、指導内容への理解を深められるようにするなど、「非接触」の「新しい生活様式」に対応した普及活動を進めている。



横浜市が同市のYouTubeチャンネルで公開している幼児向け「交通安全指導動画」



自動車安全運転教育推進協会(愛知県)が開催したオンライン交通安全教室



従来の「あやとりいひよこ」で使うワークシートを映像化



Hondaのスタッフがプログラムを実演する映像を新たに作成

### 自転車利用者の安全意識向上を図るための取り組み

コロナ禍においては、移動に公共交通機関を避けて自転車を利用するケースが増えることも予測される。自転車利用者の安全意識向上を図るため、ドライバーの安全運転教育に活用されている動画KYT※を一部改訂(2021年4月発売予定)。自転車視点の運転状況を示す映像を新たに設定したほか、従来のドライバー視点の映像にも自転車が登場する危険場面を追加した。

また、中学生・高校生に運転者の責任と基本的な自転車の交通ルールを理解してもらうための「事故事例から学ぶ 自転車の交通ルールと安全運転」を改訂。自転車がやっと思い間違いがちな違反をして事故にいたった事例や、過去の裁判で加害者である自転車側に下された賠償命令などを紹介している。以下のホームページからダウンロードできるようになっている。

<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/bicycle/>



臨場感のある映像を活用し、危険予測能力を高める動画KYT

※ Hondaが開発した教育機器。実際の交通状況を再現したCG動画を見ながら危険を予測し、その過程を受講者同士が振り返りながら話し合うことで危険感受性を高められるようになっている。



「事故事例から学ぶ 自転車の交通ルールと安全運転」を発行